

		2023年度 目標/指標	2023年度 成果	評価	2024年度 目標/指標	2030年度 目標/指標	ISO26000中核課題	ESG
--	--	--------------	-----------	----	--------------	--------------	--------------	-----

### テーマ1 地球環境を守る技術をお届けする



1.1	脱炭素・省エネ・パンデミック対応技術など地球を守る技術の開発・物件導入	開発済案件：室圧制御の物件導入 1件/年 物件導入 エコサラ 3件/年、SSBS 10件/年	0set エコサラ 2件/年、SSBS 8件/年	△	開発済案件物件導入 エコサラ 5件/年、SSBS 10件/年	開発済案件物件導入 合計150件		労働慣行 環境 消費者課題	環境 E
1.2	ZEB プランナー活動の推進	ZEB プランナー実績 5件/年	2件	△	ZEB プランナー実績 5件	合計100件			
1.3	ZEB 物件の受注推進	営業計画書 期首受注目標×5%	1.0%	△	営業計画書 期首受注目標×15%	営業計画書 期首受注目標×90%			

### テーマ2 地域と地球のために貢献する



2.1	サプライチェーン排出量算定および削減	サプライチェーン排出量の算出と次年度の削減目標設定	Scope1, 2, 3 (合算値) 793,776t-CO <sub>2</sub>	○	削減目標にむけた取組施策の実施 SBTiに Commitment Letter を提出	パリ協定の水準と整合したサプライチェーン排出量削減目標達成のための活動を継続		労働慣行 環境 公正な事業慣行 消費者課題 コミュニティへの参画	環境 E
2.2	お客様のGHG 排出量調査と削減提案	各支店でお客様の1事業所にチャレンジ	4支店 5物件	○	各支店でお客様の1事業所に調査と提案	合計50事業所			
2.3	国内外での研究開発と技術協力	国内外の大学や企業との研究開発・技術協力	国内10件、海外5件の研究開発・技術協力	◎	研究開発・技術協力 15件	研究開発・技術協力 15件を継続			
2.4	社会貢献活動および地域の災害支援活動	社会貢献 (1本部10支店×5回) 災害協定 (11か所)	社会貢献 63回 (1本部10支店×5回以上) 災害協定 (11か所)	◎	社会貢献活動継続 (1本部10支店×5回) 以上 災害協定継続	社会貢献活動および地域の災害協定を継続			

### テーマ3 透明で公正な事業を推進する



3.1	コーポレートガバナンスの強化	ガバナンス体制の評価・改善 コーポレートレポート (CR) 発行	腐敗防止方針、知的財産権方針 を制定 7/31 '23年版発行 価値創造プロセス追加	◎	環境関連の取組状況および情報開示内容の取締役会承認 CRにスキルマトリクス追加	社会情勢に適切したガバナンス体制の構築 CRの改善		組織統治	ガバナンス G
3.2	リスクマネジメントの実施	人権デューデリジェンスの運用	社内外 CSR アンケートによる調査と対応	○	人権デューデリジェンスの運用	人権デューデリジェンスの適切な運用			
3.3	コンプライアンスの推進	内部統制システムの運用・評価・改善 コンプライアンス教育の実施	内部統制委員会活動状況を取締役会への報告 関連法令・ハラスメント・CSR 教育研修を実施	◎	内部統制システムの運用・評価・改善 コンプライアンス教育の実施	内部統制システムの運用・評価・改善 コンプライアンス教育の実施			

### テーマ4 安心できる技術とサービスをお届けする



4.1	コンカレントエンジニアリング (CE) 推進とBIM活用							労働慣行 環境 消費者課題	社会 S
4.1.1	高品質な機能と製品の提供	お客様目線の営業活動を各支店で1件以上 全支店でCEの新規モデル物件を設定し運用	17件 (9支店) 15件 (9支店)	◎	お客様目線の営業活動を各支店で4件以上、全支店 40件 CE実施 各支店1件以上、全支店20件	全支店200件/年 全支店180件/年			
4.1.2	オフサイト生産による施工推進	オフサイト生産の実行 進行基準完工高>30%	17.1%	○	オフサイト生産 各支店3件以上、全支店60件	全支店240件/年			
4.1.3	施工の見える化 (BIM活用によるオフサイト生産・機材納入・安全・品質・試験の事前検討と実施)	施工の見える化実施 各支店1件以上	3件 (3支店)	○	施工の見える化 各支店1件以上、全支店20件	全支店180件/年			
4.2	お客様が安心できる製品品質の提供	社員・協力会社への講習継続により品質意識と技術の向上を図り品質事故を防止	10支店で社員事業主研修会実施	◎	講習継続により品質意識と技術向上を図り品質事故を防止 各支店で技術系社員を対象に品質教育実施	研修継続により品質意識と技術向上を図り品質事故を防止 各支店で技術系社員を対象に品質教育実施			
4.3	お客様への提案活動								
4.3.1	民間元請受注の推進	—	営業計画書 期首目標の14.7%	○	営業計画書 期首受注目標×20%	営業計画書 期首受注目標×40%			
4.3.2	管・電・建 ワンストップの民間元請受注	営業計画書 期首受注目標×2.5%	3.2%	◎	営業計画書 期首受注目標×10%	営業計画書 期首受注目標×10%			

### テーマ5 働きやすく、働きがいのある職場づくりをする



5.1	健康経営の推進							人権 労働慣行	社会 S
5.1.1	ワークライフバランス (WLB) の実現	健康経営優良法人の認定継続 (評価結果改善) 男性の育休取得率20%以上 ('22年度14.7%)	3/11付で健康経営優良法人2024に認定 44.4% (8人/18人)	◎	健康経営優良法人の認定継続 (評価結果の改善) 男性の育休取得率×50%	健康経営優良法人の認定継続 (評価結果の改善) 男性の育休取得率100%			
5.1.2	労働に関する負傷と疾病の防止	社員・事業主研修による安全意識と技術の向上 建設災害 度数率: 0.00、強度率: 0.000	10支店で社員事業主研修会実施 建設災害 度数率: 0.71、強度率: 0.005	◎	講習継続により安全意識向上と建築災害を防止 建設災害 度数率: 0.00、強度率: 0.000	講習継続により安全意識向上と建築災害を防止 建設災害 度数率: 0.28、強度率: 0.007			
5.2	ダイバーシティの推進								
5.2.1	国籍・性別・年齢などに関係なく多様な人たちが能力に応じて活躍できる職場づくり	タレントマネジメントシステムを活用したキャリアパスシート・現況書の運用とタレントノート活用構築	タレントマネジメントシステムへ現況書の登録 キャリアパスシートとタレントノート活用については継続	○	タレントマネジメントシステムの構築	タレントマネジメントシステムを活用し多様な人材が能力に応じて活躍できる適正な人員配置を実現			
5.2.2	女性の活躍推進	えるぼし認定に向け、「女性管理職比率」と「労働時間などの働き方」を改善	女性管理職比率は改善、労働時間削減の基準は満たせず	○	えるぼし認定に向け「労働時間などの働き方」を改善	えるぼし3段階の認定取得			
5.3	デジタル技術とデータ活用による生産性向上	施工・品質・安全データの収集と展開 データによる業務プロセス変革 BIM連携積算システムの活用・展開	品質・安全情報を自動収集し展開、 技術情報検索にAI機能を搭載 BIM連携積算システムを全支店展開	○	施工計画・竣工報告など施工データの収集と展開 BIM連携積算システム 詳細見積60% 概算見積20% 施工見える化 事前検討システムの開発	情報交換スピードアップ、データ活用による社内業務の見える化・効率化・適正化推進 BIM連携積算システムの運用 詳細見積80% 概算見積60%			
5.4	人を育てる								
5.4.1	ICTや技術の進歩に対応した学び直し	6~10年目技術者が対象の研修プログラムの構築・運用	5.4.2 教育プログラムのブラッシュアップへ移行	○	'25年度以降の研修に向け、新プログラム作成	新プログラムによる研修実施とプログラム改善			
5.4.2	階層別研修と若手のエンジニア育成教育 (全12階層)	教育プログラムのブラッシュアップ	スキルアップ研修として ①原価・工務 ②若手技術者IIを新設	◎	スキルアップ研修として ①安全品質 ②現場代理人II ③原価工務 ④若手技術者II ⑤電気自動 ⑥営業を追加	教育プログラムの継続とブラッシュアップ			
5.4.3	DX人材の育成	DX推進リーダーの育成	経営層を対象としたDX研修実施	◎	各部門でDX推進に必要な情報をICT技術者に説明できる人材の育成 本社2名、各支店1名	各部門でDX推進に必要な情報をICT技術者に説明できる人材の育成 部門内の30%			
5.4.4	管・電・建に関する実務者と資格者の確保	一級管以外: 6名以上 (合格者+資格保有者採用)	建築士 1人、博士2人、技術士 1人	◎	一級管以外: 6名 (合格者+資格保有者採用)	建築士、建施工、博士+技術士 各合計10人 電施工 合計20人 通信施工 合計5人 情報処理技術者 合計3人			